

経営説明会

2010年度決算

(2010年4月1日～2011年3月31日)

2011年5月13日(金)

代表取締役社長 兼 CEO 中山 讓治



第一三共株式会社

2011年度の取組み

基幹事業の維持・拡大

日本

- ・国内イノベーション医薬品事業の強化・拡大
- ・OTC、ワクチン、エスタブリッシュト医薬品事業の強化・拡大

欧米

- ・オルメサルタンフランチャイズの維持・強化
- ・Effient®/Efient®の最大化

新興国における取組み強化

- ・インドにおける更なる事業成長
- ・中国での事業成長の加速

研究開発領域の集中と強化

- ・癌領域の強化
- ・エドキサバンの開発の着実な推進

販促施策

- **営業要員の配置シフト変更**
専門病院(PCIセンター)やKOLへの集中的プロモーションの実施。
院内フォーミュラーと治療プロトコルへの組み入れ促進。
- **ハイリスクACS-PCI患者への効果的メッセージの発信**

学会評価

- **ACC/AHA学会が STEMI*、UA**/NSTEMI***への使用ガイドラインへの組み入れと使用を強く推奨**

競合環境

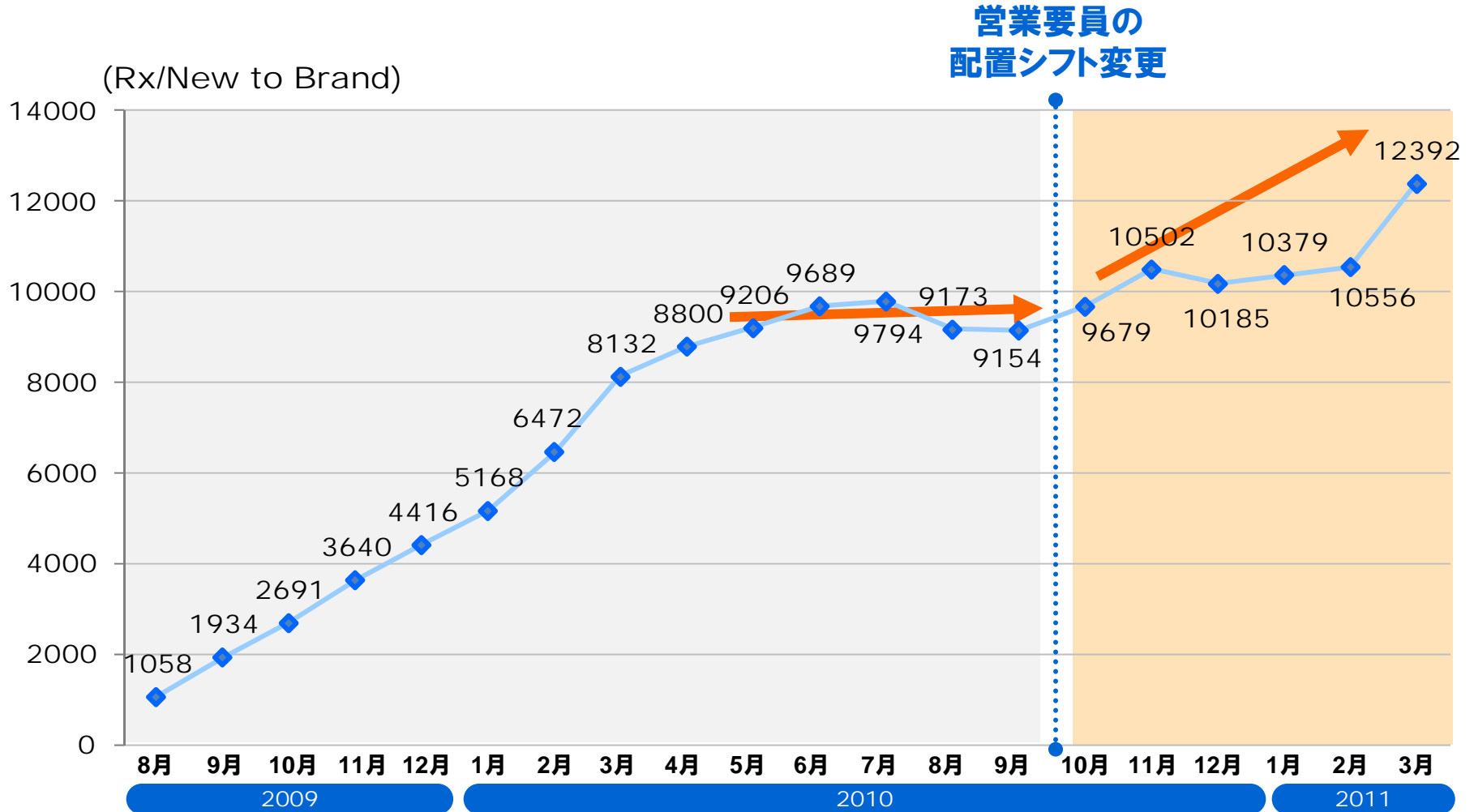
- **抗血小板療法における競合薬のノンレスポonderに関する認知向上**

* STEMI (ST elevation myocardial infarction) : ST上昇心筋梗塞

** UA (unstable angina) : 不安定狭心症

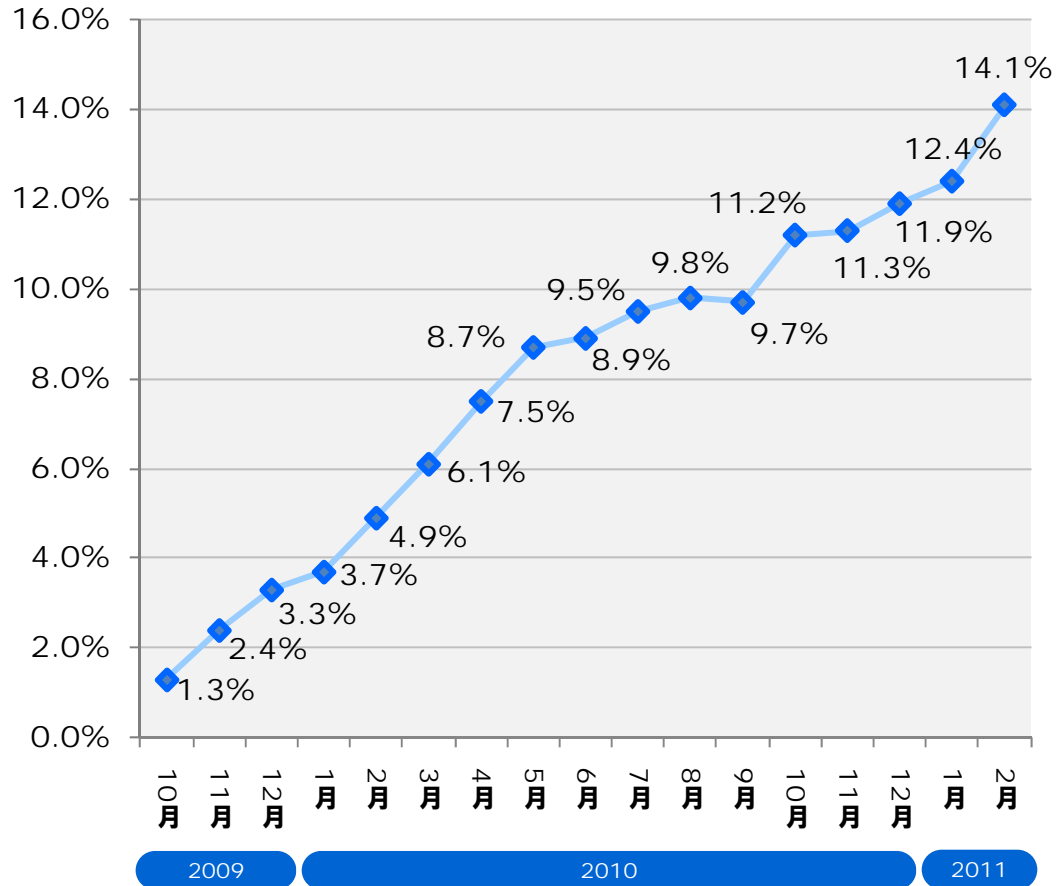
*** NSTEMI (non-ST elevation myocardial infarction) : 非ST上昇心筋梗塞





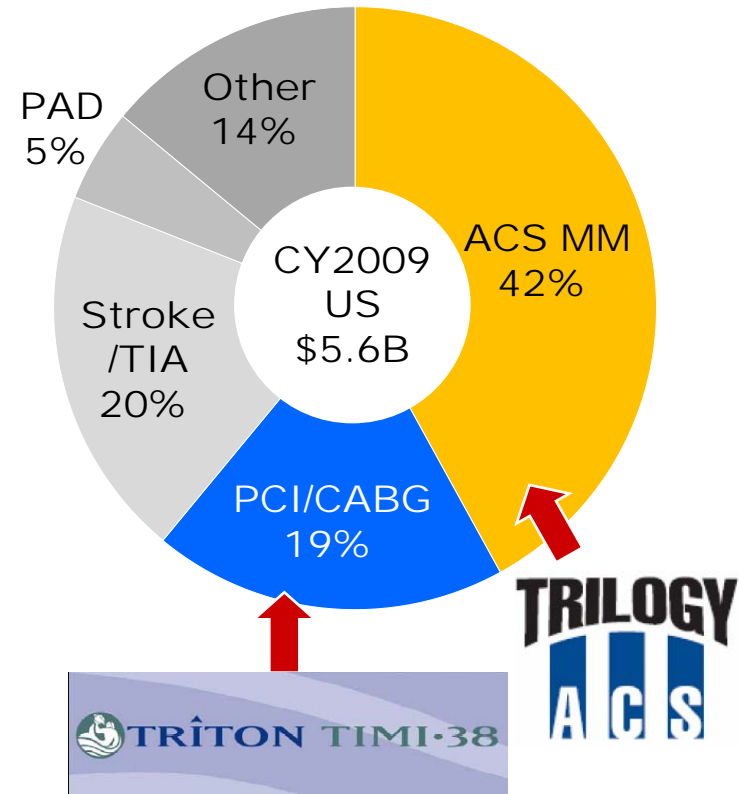
* New to Brandは、新規患者および他剤からの切り替え患者を対象としたもので、薬剤の将来の成長を示す先行指標の一つといえます。

Source: IMS NPA



Source: SDI Data

クロピドグレルの米国売上 (会社分析)

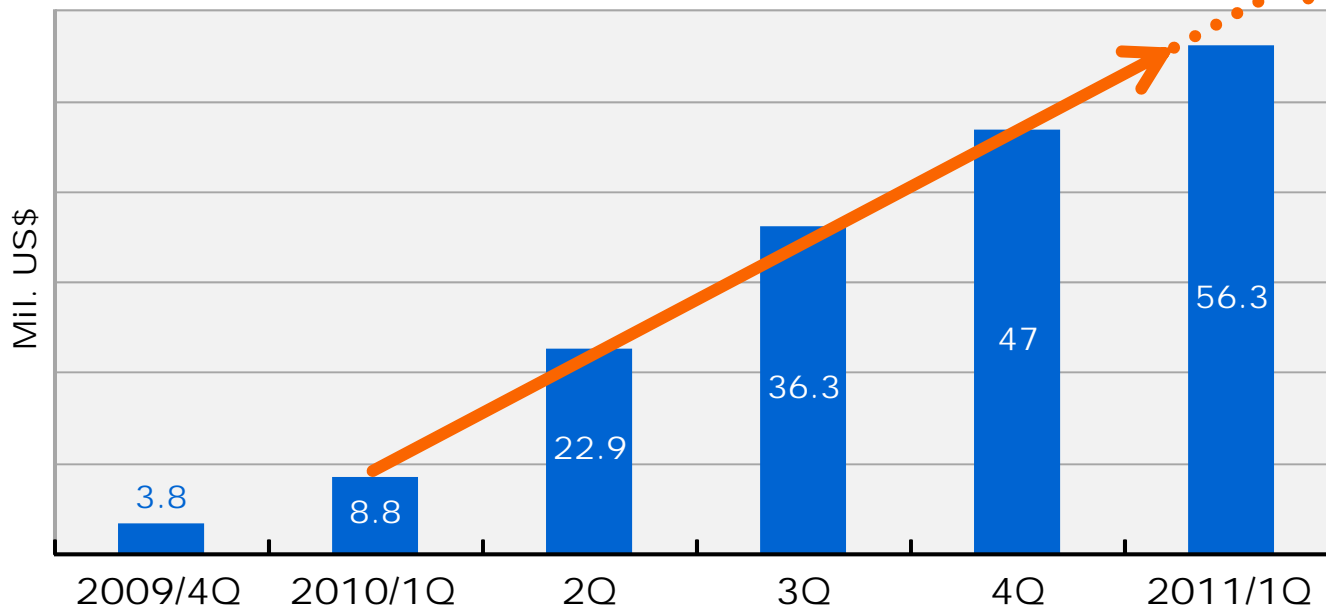


Source: IMS NDTI December 2009, IMS NSP Retail and Non-Retail Sales

Effient®/Efient®の売上拡大

- 2009年発売：欧州(3月)、米国(8月)
- 2010年10月：販売戦略の大幅な見直しによる販売強化。
- 追加適応取得による更なる拡大
 - TRILOGY試験の状況⇒2012年4月試験終了を目指す

Effient®/Efient® Global Sales



*イーライリリーの発表ベース

営業力の最大活用

国内トップクラスのMR2,400名体制の最適配置により、売上の極大化を図る

オルメサルタンの最大化

国内1,100億円の大型製品へ育成(2011年度計画/オルメテック+レザルタス)
前同26%超の成長

新薬の連続投入

2010年度 4品目(レザルタス、ロキソニンゲル、イナビル、クラビット注)

2011年度 メマリー発売(6月8日)
リクシアナ承認取得(4月22日)
エソメプラゾール
デノスマブ

原薬

プラバスタチン

- ・小名浜工場で生産
- ・9月より生産再開、11月より出荷再開予定
- ・輸出分も含めて安定供給可能な在庫保有

オルメサルタン

- ・小田原・小名浜両工場で生産
- ・小田原工場単独の生産数量アップ施策を実施
5・6月の一部休日操業などで必要数量を確保
更なる増産対応施策も検討中

製剤

オルメサルタンなど主力品

- ・主として平塚工場で生産
- ・休日操業等で必要数量確保
- ・他工場(高槻・Phaffenhofen)でのバックアップ生産を実施

メモリー

- ・原薬をメルツ社から輸入し、平塚工場で製剤・包装を実施
- ・安定的な供給体制を確保し、6月8日に新発売

その他の製品

- ・休日操業等により平塚工場の生産能力アップ
- ・必要に応じて他工場・他社へ生産移管を検討

主力製品の安定供給は可能



インドでの事業拡大

目覚ましい成長を続けるインド市場での確固たる地位を確立し、市場の伸びを上回る成長率を確保

市場予測推定: 2009年 \$12.6 Bn から 2020年には \$35~70 Bn CAGR 10~17%

ランバクシーによるプロジェクト の推進

- 営業体制の拡充: 3,200名(2009年) ⇒ 4,200名(2011年)体制へ
- 製品ラインアップの拡充
- 既存の基盤強化
 - 都市部での事業展開の一層の強化、急性期疾患領域への入力強化
- 成長余力を有するセグメントへの展開強化
 - 地方への事業拡大、病院市場への展開、慢性期疾患領域への展開

順位		会社名	MAT Mar 2011			Jan - Mar 2011		
MAT	YTD		Sales	MS	YoY growth	Sales	MS	YoY growth
			INR Bn	%	%	INR Bn	%	%
1	1	CIPLA	250.7	5.20	13.3	63.9	5.39	12.1
2	2	RANBAXY	227.0	4.71	12.1	56.6	4.78	17.3
3	3	GLAXOSMITHKLINE	201.5	4.18	11.9	47.7	4.03	7.9
4	5	PIRAMAL HEALTHCARE	189.7	3.93	6.4	46.4	3.92	0.8
5	6	ZYDUS CADILA	180.0	3.73	15.7	44.6	3.77	12.9
		インド市場計	482.4	100	15.3	118.5	100	13.6

Source: IMS SSA Audit. MAT Mar'11

中国での事業拡大

成長著しく最も魅力的な市場の一つに位置付けられる中国でのプレゼンスの拡大
(世界第5位の医薬品市場)

**積極投資により2015年度売上高30億円を目指す
(2010年度売上高8億円)**

- 北京・上海2社体制の経営効率改善と営業体制の強化
MR450名⇒700名体制へ(2015年)
- 自社MR増員ならびに他社提携による地域拡大、病院カバー率向上により
クラビット、オルメテックの更なる拡大。
- ライセンスイン、提携、M&Aなど外部資源獲得によるポートフォリオ強化

【会社概要】

2001年カリフォルニア州バークレーにて設立(非上場)

代表者: K. Peter Hirth, Ph.D.

従業員数: 約45名



開発後期の化合物の獲得

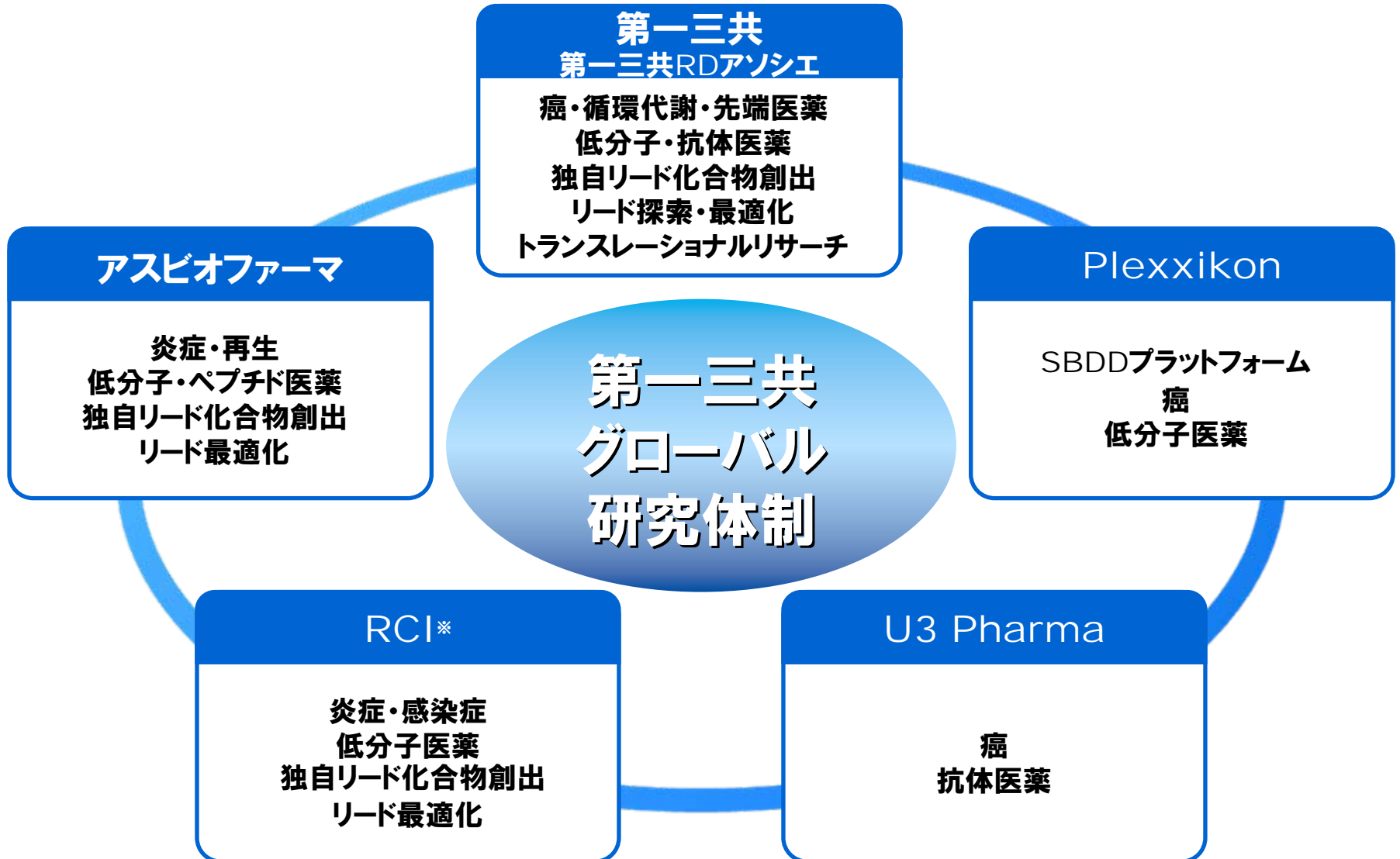
➔ 癌領域の強化と早期市場参入の実現

技術基盤の確立

- ➔ Scaffold Based Drug Discovery™
- ➔ 個別化医療の基盤構築
- ➔ サンフランシスコベイエリアでの研究基盤の獲得

パイプライン

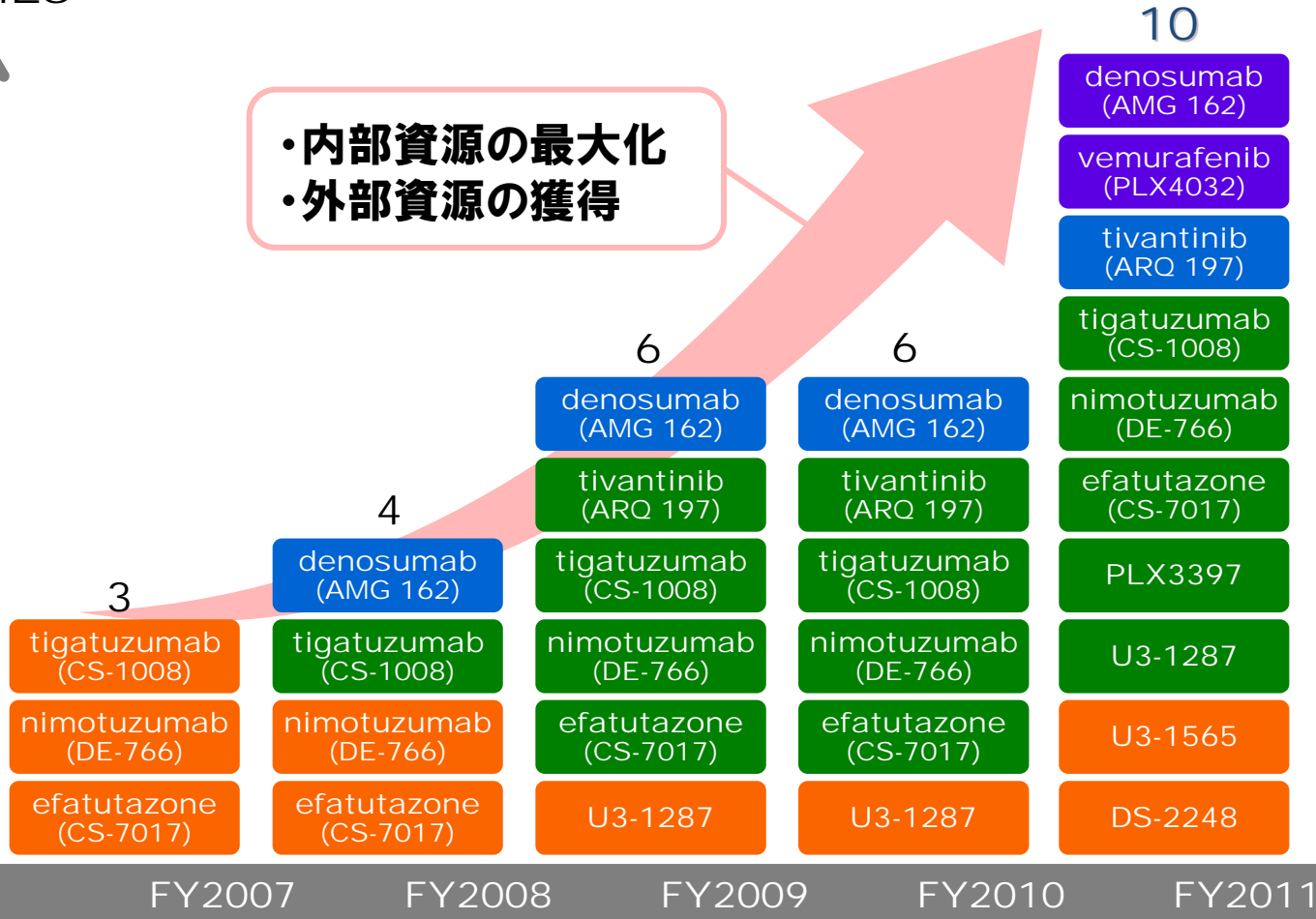
- ➔ PLX4032 (転移性メラノーマ) ロシュと提携: 欧米承認申請済
- ➔ PLX3397 (ホジキンリンパ腫 P2)
- ➔ PLX5622 (関節リウマチ P1)
- ➔ その他、複数の前臨床の化合物を保有



※Daiichi Sankyo Life Science Research Centre in India

NMEs

・内部資源の最大化
・外部資源の獲得



★ Denosumab 導入

★ U3ファーマ買収
★ ARQ 197導入

★ Plexxikon買収

決算概況

連結損益計算書 推移

	2009年度 実績	2010年度 実績	2011年度	
			予想	増減
売上高	9,521	9,674	9,700	26
売上原価	2,780	2,817	2,900	83
販売費及び 一般管理費	5,786	5,635	5,900	265
研究開発費	1,968	1,943	2,000	57
その他販管費	3,818	3,692	3,900	208
営業利益	955	1,221	900	- 321
経常利益	1,031	1,318	900	- 418
当期純利益	419	701	450	- 251

ランバクシーグループ ※

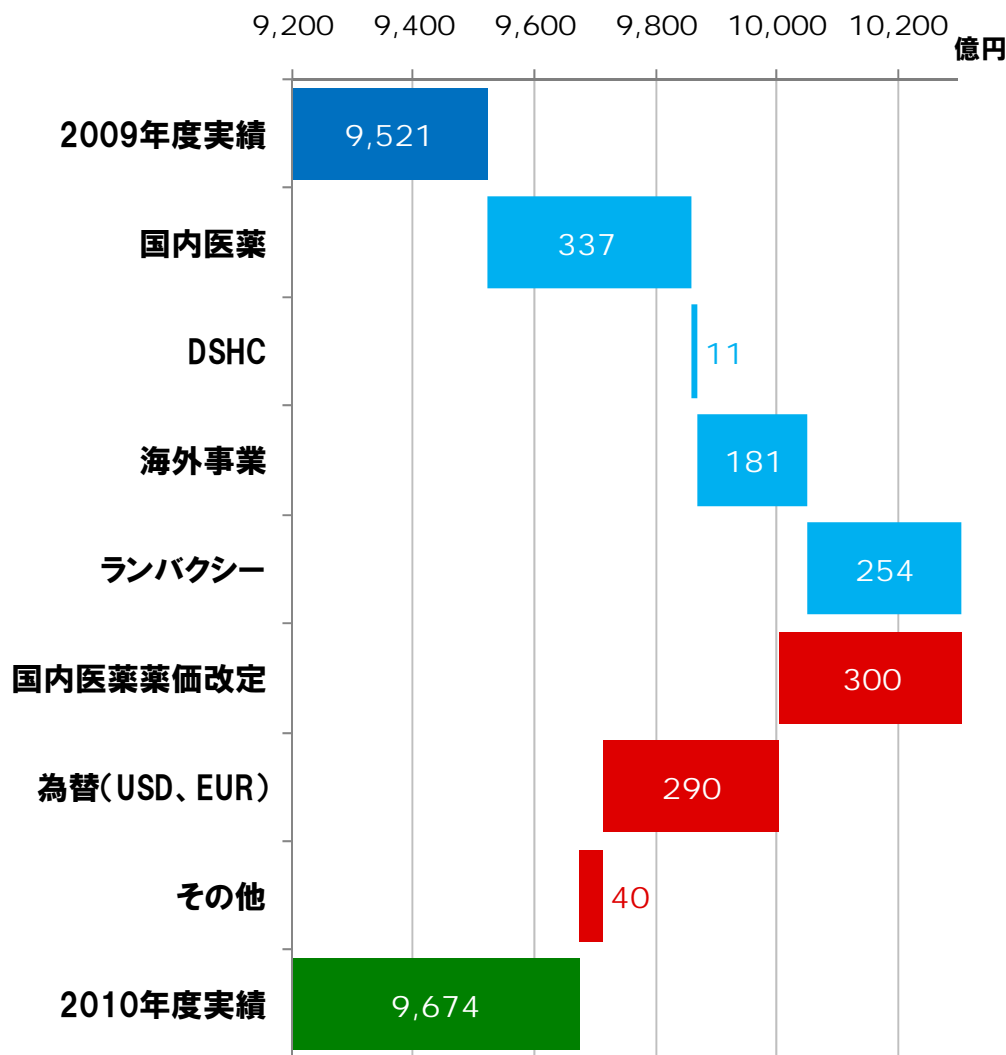
2009年度 実績	2010年度 実績	2011年度	
		予想	増減
1,467	1,731	1,620	- 111
754	798		
649	656		
103	120		
546	535		
63	277		
130	400		
42	233		

※ 連結調整前の数値

単位:億円



売上高増減要因



国内医薬 +337

- ・オルメテック、ロキソニン等既存品の拡大
- ・新製品の寄与:レザルタス +47、イナビル +66 他
- ・販売権返還 -80

海外事業 +181

- ・第一三共Inc. (DSI) +83
 オルメサルタン +6、ウェルコール +34
 エフィエント共同販促収入 +37
- ・ルイトボルド (LPI) +63
 ヴェノファー +11、ファルマフォース品 +39
- ・第一三共ヨーロッパ (DSE) +18
- ・アジア/中南米 (ASCA) +17

ランバクシー (RLL) +254

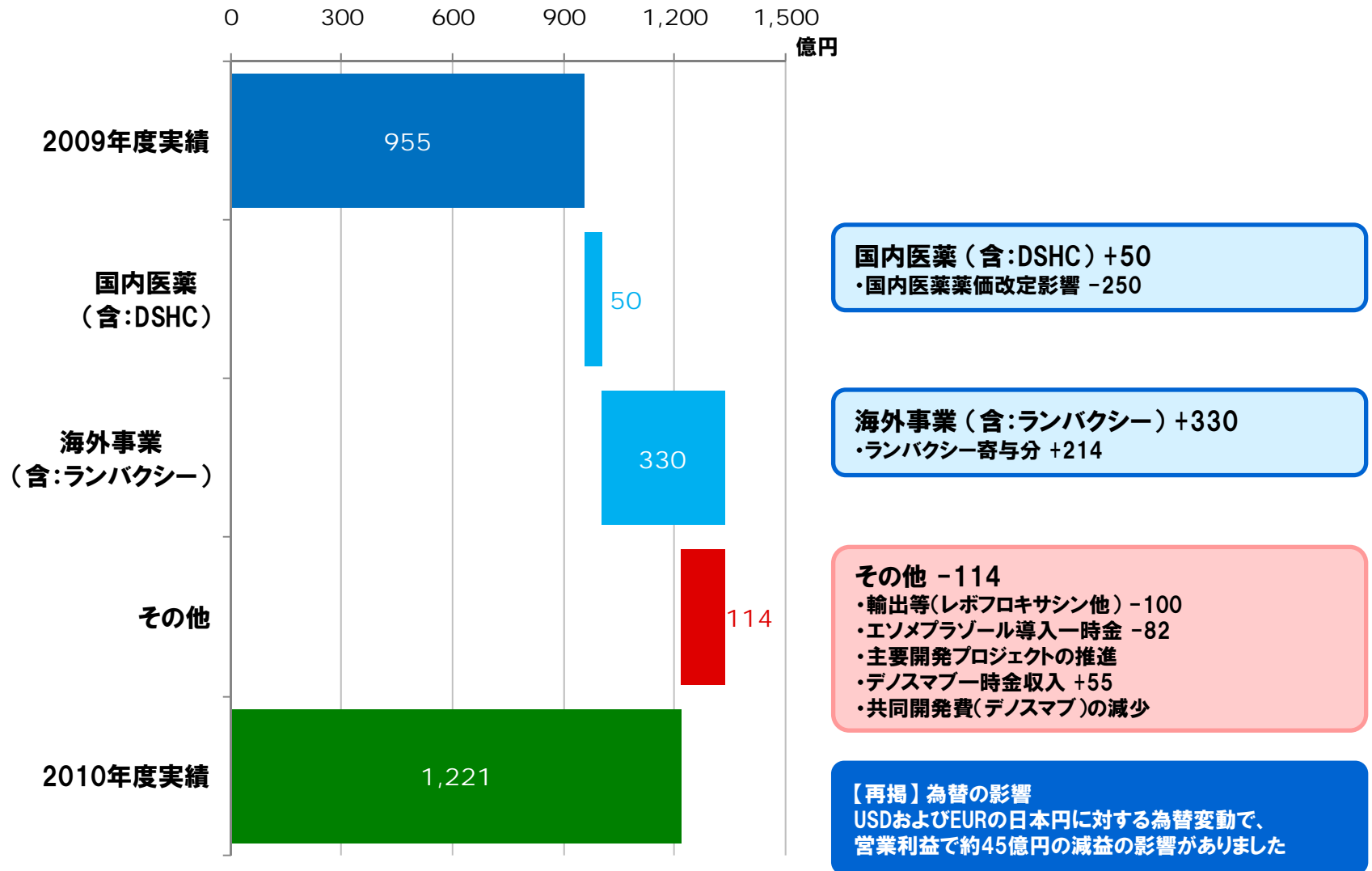
- ・バラシクロビル・ドネペジルの寄与、一時金収入など

その他 -40

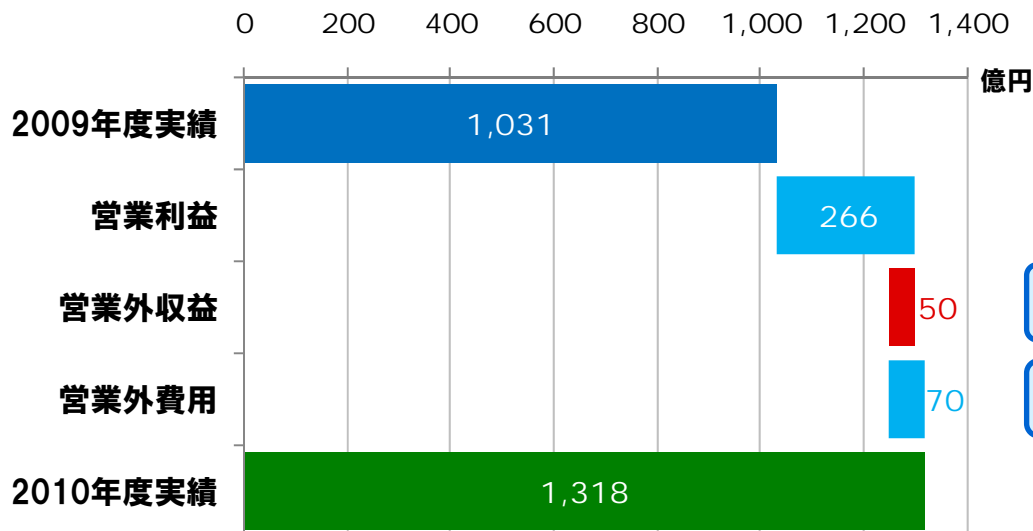
- ・レボフロキサシン輸出等減少、デノスマブ一時金収入



営業利益増減要因



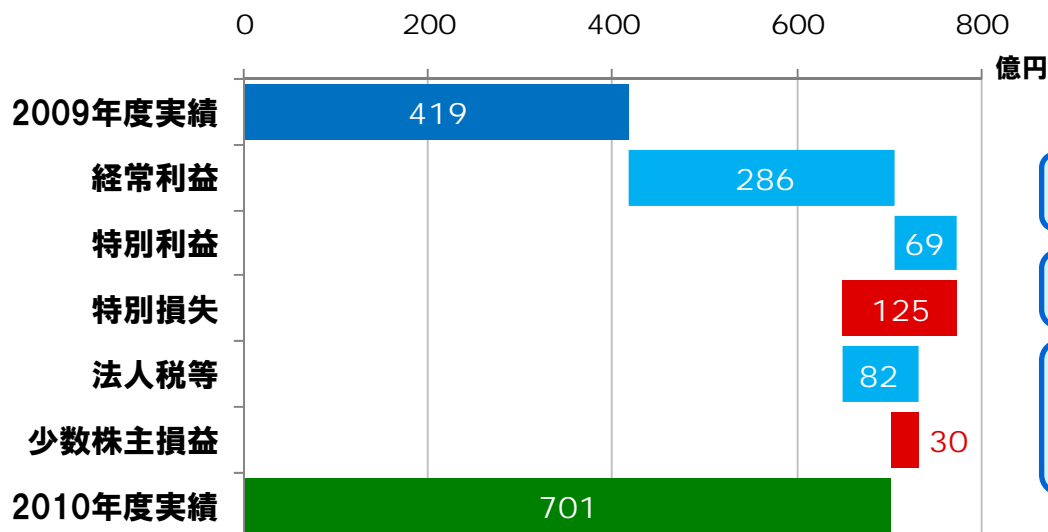
経常利益 増減要因



営業外収益:
・ランバクシーの為替デリバティブ評価益等の減少

営業外費用:
・ランバクシーの為替差損等の減少

当期純利益 増減要因



特別利益:
・固定資産売却益、投資有価証券売却益等の増加

特別損失:
・災害による損失、減損損失等の増加

税率の大幅改善:
・2009年度は、2008年度の税金修正あり。
・2010年度は、アスピオファーマ事業再編で引き継いだ繰越欠損金に税効果を適用した。

	2010年度業績予想 (1月公表)	2010年度 実績	差異
売上高	9,650	9,674	24
売上原価	2,800	2,817	17
販売費及び 一般管理費	5,650	5,635	-15
研究開発費	1,940	1,943	3
その他販管費	3,710	3,692	-18
営業利益	1,200	1,221	21
経常利益	1,250	1,318	68
当期純利益	700	701	1

災害に伴う販売促進費減

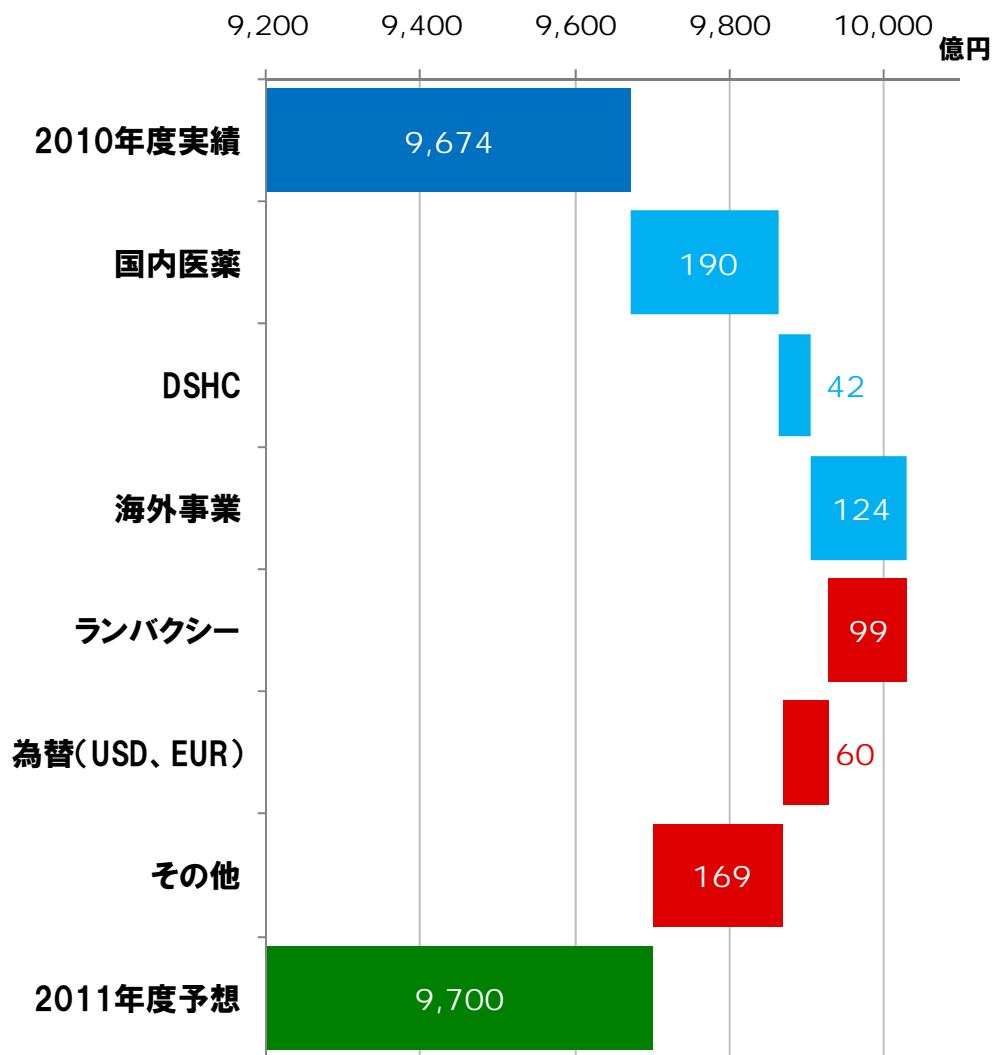
営業外損益: +46
・ランバクシー為替差益(第4四半期分)

特別損益: -83
・災害による損失 -56

単位: 億円



売上高増減要因



国内医薬 +190

- ・オルメサルタン (オルメテック + レザルタス) +230
- ・販売権返還 -240
- ・新製品の寄与等

海外事業 +124

- ・第一三共Inc. (DSI) +38
- ・ルイトポルド (LPI) -33
- ・第一三共ヨーロッパ (DSE) +93
- ・アジア/中南米 (ASCA) +26

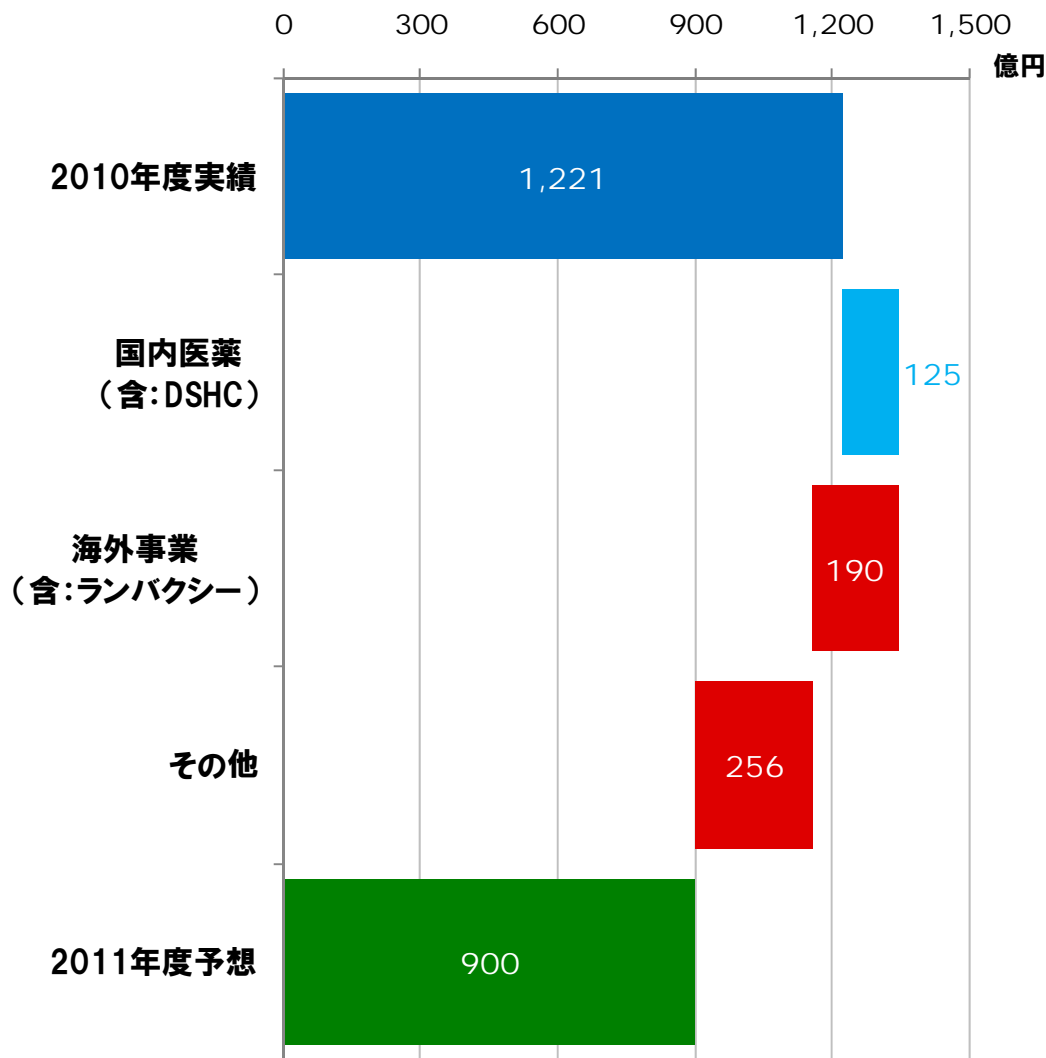
ランバクシー (RLL) -99

- ・一時金収入の減少、円高(対ルピー)の影響 -30

その他 -169

- ・レボフロキサシン輸出等、デノスマブ一時金の減少

営業利益増減要因



国内医薬 (含: DSHC) +125

- ・売上増 +232
- ・新製品販促強化

海外事業 (含: ランバクシー) -190

- ・ランバクシー 2010年度 バラシクロピルの寄与等
- ・第一三共Inc.販売体制効率化
- ・ルイトホルド新製品 (Sprix) 対応

その他 -256

- ・輸出等 (レボフロキサシン他) -190
- ・デノスマブ一時金収入 -55
- ・Plexxikon関連 (暫定) -40
- ・主要開発プロジェクトの推進
- ・エソメプラゾール導入一時金 +82

【再掲】為替の影響

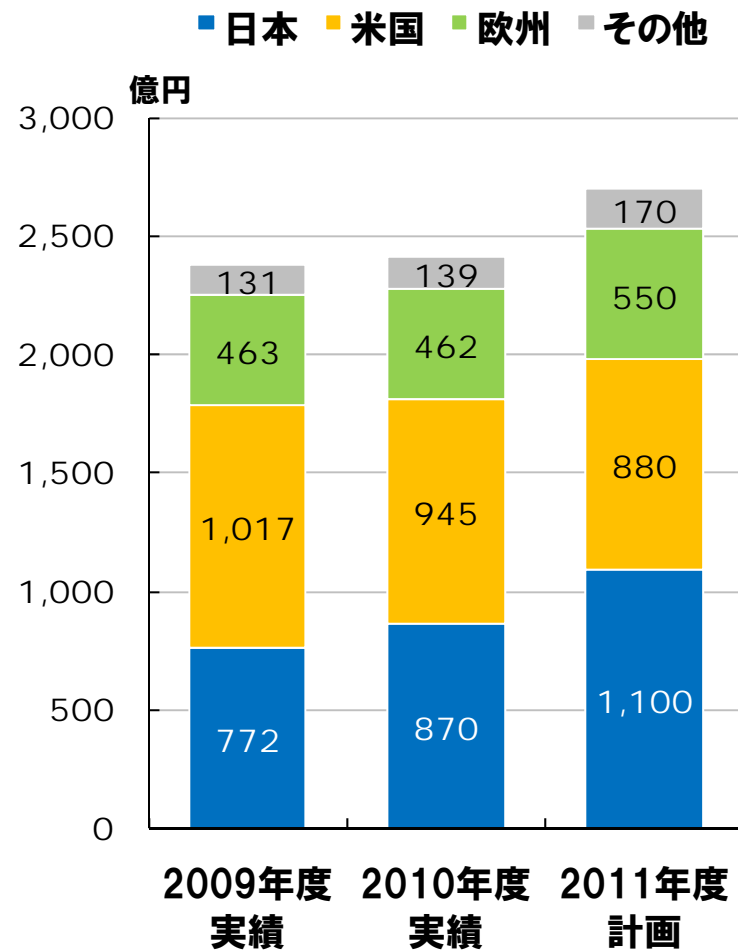
USDおよびEURの日本円に対する為替変動による営業利益への影響は、軽微と見ております。



単位:億円

		2009年度 実績	2010年度 実績	2011年度 計画	
グローバル	オルメサルタン	2,383	2,415	2,700	11.8%
	レボフロキサシン	872	691	530	-23.3%
	プラバスタチン	550	449	380	-15.3%
	プラスゲレル (共同販促収入)	5	52	非開示	
日本	ロキソニン	470	542	580	7.1%
	アーティスト	233	237	230	-3.0%
	オムニパーク	273	250	230	-8.0%
	カルブロック	137	140	150	7.5%
	ユリーフ	90	101	110	9.4%
米国	ウェルコール	275	285	320	12.2%
	ヴェノファー	322	307	250	-18.5%
為替 レート	USD/円	92.86	85.72	83.00	
	EUR/円	131.16	113.13	115.00	

オルメサルタン 地域別売上



領域	Phase 1	Phase 2	Phase 3	承認申請中
循環代謝	<ul style="list-style-type: none"> ■ CS-3150 (高血圧症治療剤) ■ DS-7309 (糖尿病治療剤) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ DU-176b(米/欧) (エドキサバン/静脈血栓塞栓(術後) / 経口FXa阻害剤) ■ CS-747(日) (プラスグレール/脳梗塞/抗血小板剤) ■ CS-1036(日/亜) (糖吸収阻害剤) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ DU-176b(米/欧/日/亜) (エドキサバン/AF/経口FXa阻害剤) ■ DU-176b(米/欧/日/亜) (エドキサバン/VTE/経口FXa阻害剤) ■ ☆CS-747(米/欧/亜) (プラスグレール/ACS-MM/抗血小板剤) ■ CS-747(日) (プラスグレール/ACS-PCI/抗血小板剤) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ DU-176b(日) (エドキサバン/静脈血栓塞栓(術後) / 経口FXa阻害剤)
癌	<ul style="list-style-type: none"> ■ CS-7017(日/亜) (efatutazone/PPARγ活性化剤) ■ U3-1565(米)(抗HB-EGF抗体) ■ U3-1287(日)(抗HER3抗体) ■ DS-2248(米) (Hsp90阻害剤) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ U3-1287(米/欧)(抗HER3抗体) ■ CS-1008(米/欧/日/亜) (tigatuzumab/抗DR5抗体) ■ CS-7017(米/欧) (efatutazone/PPARγ活性化剤) ■ DE-766(日) (ニモズマブ/抗EGFR抗体) ■ PLX3397(米) (Fms/Kit/Flt3-ITD阻害剤) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ ARQ 197(米/欧) (tivantinib/非小細胞肺癌/c-Met 阻害剤) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ PLX4032(米/欧) (vemurafenib/メラノーマ/BRAF阻害剤)
感染症	<ul style="list-style-type: none"> ■ CS-8958(米/欧) (ラニナミビル/抗インフルエンザ / ビオタと共同開発) ■ CS-4771 (敗血症治療剤) ■ DS-8587 (広域抗菌剤) 		<ul style="list-style-type: none"> ■ ☆CS-8958(日) (ラニナミビル/抗インフルエンザ(予防) / ノイラミニダーゼ阻害剤) 	
骨・関節	<ul style="list-style-type: none"> ■ PLX5622 (関節リウマチ治療剤) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ AMG 162(日) (デノスマブ/関節リウマチ/抗RANKL抗体) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ AMG 162(日) (デノスマブ/骨粗鬆症、乳癌補助療法 / 抗RANKL抗体) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ AMG 162(日) (デノスマブ/癌骨転移/抗RANKL抗体)
免疫・アレルギー	<ul style="list-style-type: none"> ■ CS-0777 (免疫抑制剤) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ SUN13834(米)(キマーゼ阻害剤) 		
その他	<ul style="list-style-type: none"> ■ DS-5565 (慢性疼痛治療剤) ■ SUN13837 (脊髄損傷治療剤) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ SUN11031(米/欧) (ヒトグレリン/COPDカヘキシア) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ SUN11031(日) (ヒトグレリン/神経性食欲不振症) ■ ☆DD-723-B(日) (ペルフルプタン/前立腺癌・乳腺腫瘍の造影/超音波造影剤) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ KMD-3213(中国) (シロドシン/排尿障害改善 / α1A受容体選択的拮抗剤)

◆2011年1月(2010年度第3四半期決算発表)以降の主な変更

- 新規追加 PLX4032(メラノーマ/BRAF阻害剤/米欧/申請), PLX3397(Fms/Kit/Flt3-ITD阻害剤/米/P2), PLX5622(関節リウマチ治療剤/P1), DS-7309(糖尿病治療剤/P1), DS-2248(Hsp90阻害剤/P1), SUN13837(脊髄損傷治療剤/P1)
- ステージの変更 DU-176b(静脈血栓塞栓症(術後)/経口FXa阻害剤/日/承認)
- 中止 CS-1036(糖吸収阻害剤/日亜/P2)

☆効能追加、剤形追加等



領域	Phase 1	Phase 2	Phase 3	申請中	承認
循環代謝	<p>新規追加</p> <p>DS-7309 (糖尿病治療剤)</p>	<p>中止</p> <p>CS-1036(日/亜) (糖吸収阻害剤)</p>		<p>ステージ変更</p>	<p>DU-176b(日) (エドキサバン/ 静脈血栓塞栓(術後)/ 経口FXa阻害剤) ※販売名:リクシアナ(R)錠</p>
癌	<p>新規追加</p> <p>DS-2248(米) (Hsp90阻害剤)</p>	<p>新規追加</p> <p>PLX3397(米) (Fms/Kit/Flt3-ITD 阻害剤)</p>		<p>新規追加</p> <p>PLX4032 (米/欧) (vemurafenib/ メラノーマ/BRAF阻害剤)</p>	
骨・関節	<p>新規追加</p> <p>PLX5622 (関節リウマチ 治療剤)</p>				
その他	<p>新規追加</p> <p>SUN13837 (脊髄損傷治療剤)</p>				

本資料に関するお問い合わせ先

**第一三共株式会社
コーポレートコミュニケーション部**

TEL: 03-6225-1126(報道関係者の皆様)

03-6225-1125(株式市場関係者の皆様)

本資料における将来の予想等に関する各数値は、現時点で入手可能な情報に基づく弊社の判断や仮定によるものであり、リスクおよび不確実性が含まれております。したがって実際の業績等は、予想数値とは異なる結果となる可能性があります。